

## 第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 ショパニスト A 部門

### ●審査員 A

- ・ショパンに向き合う姿勢が感じられました。
- ・ホールのひびきを考慮したペダリングを、もう一度自分の演奏にあてはめてよく聞く必要があるのではと思う人がありました。
- ・パッションを感じる演奏があってよかったですと思います。

### ●審査員 B

皆さん、今後勉強されていくうえで、是非以下のことを心がけてみてください。

- ・左手の重要性：伴奏だけでなく、色彩、和声、更には語りの役割も担っていることが非常に多いです
- ・音の表現：音の多様性とコンサートホールの環境に合わせた音の表現
- ・フレージングの明瞭さと自然さ：旋律の性格や美しさを自然に表現しましょう
- ・アゴーギグと音楽の息づかいの自然さ
- ・楽譜の正しい読み方：(例えばアーティキュレーション記号の) 演奏方法は、常にコンテクトに基づいたものにしましょう

### ●審査員 C

ショパン愛好者の方々の部門ですが、演奏レベルは高かったと思います。

特にテクニク的にも余裕を感じる演奏が多くありました。

その反面、音の響きより力まかせの音を出す方も少数ですがいらっしゃり少し残念でした。全体的にはよく弾き込んでいる方ばかりのアジア大会でした。

### ●審査員 D

アジア大会進出おめでとうございます。

ここまで皆さん時間をかけてしっかりと曲を準備されて、このステージで演奏された事は素晴らしい事と思います。

ショパニスト部門というカテゴリーでは、様々な方がいらっしゃいますが、どの方もこれまで大切ににあたってきた曲や、新しい曲に挑戦で受けられる方もいらっしゃる事でしょう。どの演奏にも皆様の熱い思いが伝わり素晴らしかったです。これからもたくさんの曲に触れられ、更にショパンの世界を楽しんで頂ければと思います。皆様、素晴らしい演奏をありがとうございました。

●審査員 E

しっかりとしたメカニックで弾かれている方が多いように思いましたが、オクターブや和音、そして難しいパッセージの際、腕に力が入って音が硬くなり、表現も控えめになるケースが印象に残りました。ショパンが理想としていた自然で全身を使う柔らかさのある奏法に立ち返って、テクニックと音楽性が一体となったショパンの演奏を目指してください。

●審査員 F

今回のコンクールで聴く機会があったピアニストたちへの私からのコメントや提案は、正直なところ以前私がこのコンクールで述べたコメントの内容と重なることが沢山あります。

真の芸術家は（敢えてピアニストではなく芸術家と呼びます）、ピアノを弾くのではなく芸術的想像力を駆使し指でストーリーを語ります。音は言葉であり、フレーズは文章であり、曲は全体の物語です。このように音楽を理解し伝えてこそ、聴く人の魂に届き、音楽のあらゆる感情や表現を伝えることが出来るのです。

以前のコンクールでのコメントの内容とも重なりますが、ペダルではなく指を駆使した「レガート・カンタービレ」、和声構造の認識、アーティキュレーション、正確なペダル、ショパンが重視した演奏の自然さ、聴衆の喝采を浴びることだけを目的とする人工的な「演出」のない演奏、メトロノームの過度なプレッシャーに左右されない音楽の時間感覚と柔軟な語り（メトロノームの正確さは、ときに芸術的想像力を乱すことがあります）はショパンを弾く上で常に覚えておきたいことです。

コンクールに参加する目的は賞ではありません。コンクールは、意識的にレパートリーを増やすことに役立ち、具体的で期限付きの課題を与えてくれ、向上心や集中力へも影響をもたらします。コンクールは音楽家の成長にとって重要で前向きな要素となるのです。

最後にコンクールに参加された皆さん、そしてその先生方、親御さん、お子さんや生徒さんが芸術的な達成から多くの喜びを得られることを心から祈っています。